

■若松賤子 翻訳家，評論家。巖本善治の妻。児童文学史上の金字塔となる名訳「小公子」を遺して，早世した。

わかまつしずこ

禁門の変・・・1864＝ 生。会津藩士松川(島田)勝次郎の長女。本名甲子，のち嘉志子。

明治維新・・・1868＝ 4歳：戊辰戦争で一家は没落し，離散。

初の日刊新聞1870＝ 6歳：織物商大川甚平の養女となり横浜へ移り，
廃藩置県・・・1871＝ 7歳：婦人宣教師ギダーの設立した英学塾(フェリス女学院)に入学。

明治6年政変 1873＝ 9歳：

西南戦争・・・1877＝13歳：受洗。

明治14年政変1881＝17歳：
新体詩抄・・・1882＝18歳：フェリス女学院高等科第1回生として卒業，母校の英語教師となる。

帝国大学始・・・1886＝22歳：実家に復籍，島田嘉志と名のる。_若松賤の筆名で，巖本善治が主筆をつとめる{女学雑誌}に紀行文「旧き都のつと」を発表，続いてロングフェローなどの訳詩を掲載する。すでに肺結核に冒されていたが，

帝国憲法発布1889＝25歳：*善治と結婚。男女の人格が対等であることを認め合ったうえでの結婚であった。フェリス女学院を退職し，病気に苦しみ家事に追われながら「お向ふの離れ」「すみれ」などの小説・翻案・翻訳・児童教育についての評論などを{女学雑誌}に発表した。

帝国議会始・・・1890＝26歳：*特にこの年から3年連載したバーネットの「小公子」の翻訳は純然たる口語体の名訳で，児童文学史上の金字塔になるとともに，賤子の名を不朽にした。

大津事件・・・1891＝27歳：

日清戦争始・・・1894＝30歳：

白馬会・・・1896＝32歳：*夫善治が経営する明治女学校が焼失，校長舎からの避難で病状悪化し，3児を残して，没した。
墓は東京巣鴨の染井墓地にあり，遺言通り墓には「賤子」の2字のみが刻んである。没後，英文遺稿集「巖本嘉志子」「忘れかたみ」が出版された。